

News Letter

富山の薬売り

小児科部長 前田明彦



「富山の薬売り」をご存知でしょうか？私がこどもの頃、富山から行商人が年一回田舎にやってきて、一軒一軒回って、薬箱を置いて帰りました。翌年に訪問を受けたときに、開封した薬の代金だけを支払うという仕組みでした。かぜをひいたり、おなかをこわしたり、皮膚が化膿したりしたときに、この薬箱が役に立つのです。何も手当をするすべもなく、がまんするのは辛いものです。一方、何かしらの手当があれば、夜や休日が開けるまでの短い時間はたいていやりすごせます。その手当でだけで治ったり（自然治癒だったのかも？）、気にならなくなったりして、医者にかからなくて済むことがほとんどでした。

よくお世話になったくすりに「ワーム」という軟膏がありました。いかにも薬くさい匂いの強い黄白色の軟膏で、虫に刺されたら、傷が治りにくいときなどに重宝しました。

今にして思えば、救急医療がシステムとして機能しておらず、町医者の使命感に満ちた善意だけで支えられていた時代には、富山の置き薬が一定の役割を果たしていたのでしよう。

置き薬を利用する際には、この症状にはどの薬を使うのが適切かの選択は自己責任になります。したがって、自分や家族の症状をよく分析して、薬箱の効能書きを熟読して、選んだ薬を開封するわけです。このプロセスを経るうちに、健康や病気、体質といった問題に直面し、おのずと医学への関心が強くなっていたような気がします。

私は小児科医ですが、こどもさんを診ておりまして、熱さまし、吐き気止め、傷ぐすり、じんまし



んの薬などは、ご自宅で保管しておいて、いざ困ったときに使用することをお勧めしています。実は、そう思って少し多めにお出ししているつもりです。もちろん、薬にも「賞味期限」がありますので、それを逸脱してはいけません。座薬（おしりから刺す薬）は冷蔵庫に保管すれば1年は大丈夫です。粉薬は湿気（しっけ）のためです。タッパーなど気密性の高い容器に乾燥剤とともに保管することをお勧めしています。

やさしい食生活

栄養科

温かい日が増えてきました。春の晴れた日は少し歩くだけで色とりどりの花や春風に触れ季節を感じられますね。青々とした緑色をした野菜や山菜類は温かさに刺激され芽吹く力に溢れています。軟らかくみずみずしい春野菜はより新鮮さを感じさせてくれますね。

『しっかり食べて身体を動かす』のに適した季節を楽しみましょう。



【鯛と春野菜のあっさりパスタ】

2人分

たい・・・・・・・・2切れ(200g)

たけのこ・・・・・・・・50g

アスパラガス・・・・・・・・2本

菜の花・・・・・・・・4本

にんにく・・・・・・・・1/2かけ

赤とうがらし・・・・・・・・1/2本

スパゲッティ・・・・・・・・100g

塩・こしょう・・・・・・・・少々

オリーブオイル・・・・・・・・適量



①鯛は塩をふって焼き、粗くほぐします。

②たけのこはスライスし、アスパラガスはかたい部分とハカマを取り、3cm長さの斜め切りにします。菜の花も3cm長さに切ります。

③フライパンにつぶしたにんにく、種を取った赤とうがらし、オリーブオイルを入れて香りが出るまで弱火にかけます。

④塩を加えた熱湯でスパゲッティをゆで、残り1分になれば②を加えます。

⑤③に①と④をいれて、ゆで汁とオリーブオイルを少し加えて混ぜ、塩とこしょうで味を調えます。

※パスタの量は少なめです。食材を大きく切って食感も楽しみましょう。

※食材はあさりやさしらす、春キャベツやスナックプえんどうなど選んで旬を味わいましょう。

レセプトについて

医事課より



みなさんは診療報酬明細書をご存じですか？診療情報明細書は「レセプト」とも呼ばれ、患者さんが受けられた診療について病院や診療所などの医療機関や保険薬局が保険者（市町村や健康保険組合等）に請求する医療費の明細書のことをいいます。これは、医療機関等で実際にかかった医療費のうち患者さんが負担された医療費の残りを保険者に請求するものです。

レセプトの提出は、診療行為をした翌月の10日までにまとめて提出します。提出したレセプトには、患者さんの氏名、保険者番号、傷病名や診療内容等が記載されます。記載不備など問題があった場合は医療機関に返

され患者さまへの請求額や、病院に支払われる診療報酬額が変更になる場合があります。

正しい診療報酬の請求を行うということは、患者さんにとっても病院にとっても重要なことです。間違った保険証の番号や資格喪失後の保険証による請求も全て返されてくるため病院の窓口では毎月保険証の確認をしております。月の途中で保険証の変更があった場合は、お気軽にお申し出ください。



お知らせ

がんの学び舎

in 古津賀

「みんな知りたい、がんの話」

講師：幡多けんみん病院

副院長（外科）

上岡 教人

日時：平成28年4月17日（日）

10時～11時半

場所：古津賀第2団地集会所

（四万十市）

参加費：無料

＊現在、がんは2人に1人かかり、がんで3人に1人が亡くなると言われています。これから健やかに過ごすためには、がんの予防や治療の知識など正しい情報を持つことが大切です。皆さん、がんについていっしょに学びませんか。当日は、がん以外の健康相談にも応じます。

よじばの会

がん患者さんならびに
そのご家族のみなさまへ

日時：平成28年4月24日（日）

10時～12時

場所：幡多けんみん病院

3階 大会議室

共に語り合い、学び合いを通して親睦を図り、また安心して納得できる医療を受けられるように医療従事者との情報や意見の交換を試してみませんか。
幡多地域に居住されているかたに限らず、また治療を受けている医療機関を問わず、どなたでも参加できますので、是非気軽に参加ください。

問い合わせ先

（0880）66・2222

がん相談支援センター



「意見箱」について

当院では、より良い病院を目指す為に、みなさまからの要望や感想を受け付ける「意見箱」を設置しています。ご意見箱は、紹介患者受付窓口横と、各病棟のエレベーター裏のラウンジにも設置しております。

みなさまから寄せられたご意見の回答につきましては、紹介患者窓口横の掲示板と各病棟のラウンジに掲示いたしますのでご覧ください。

＊7階病棟のみエレベーター前の掲示板です。



病院の理念

1. 幡多けんみん病院は幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や保健・福祉・介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指します。
2. 地方公営企業として、地域医療をととして地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営をおこないます。

医療機関を受診される際は、**お薬の内容が分かるもの（薬剤情報提供書・お薬手帳など）**を持って行くようにしましょう！

私たちの目指す医療（基本方針）

1. 正確で間違いのない医療
2. 十分に説明をする医療
3. 透明性を大切にする医療
4. 患者さんの希望を大切にする医療

第31回幡多ふれあい医療公開講座

日時：平成28年4月17日（日）

13時開場 13時半開演

場所：四万十市立中央公民館

（四万十市右山）

内容：

①口から食べられる喜び

↳高齢者の飲み込み障害

在宅療養支援歯科診療所

島田歯科院長 島田 力

②高血圧について

↳健康で長生きするための

四万十市立市民病院

内科副部長 濱川 公祐



参加費：無料
どなたでも参加できます。

主催：幡多けんみん病院

後援：

四万十市、宿毛市、大月町、土佐清水市、黒潮町、

三原村、幡多福祉保健所、

幡多医師会

みなさま、お誘いあわせのうえ奮ってご参加ください。

【問い合わせ先】

幡多けんみん病院

（経営事業課）

（0880）66・2222

*各市町村担当部署



幡多けんみん病院における患者さんの権利

1. 良質な医療を平等に受ける権利
2. 医療を受けるにあたり、十分な説明を受ける権利
3. プライバシーが守られることを期待する権利
4. 自分の希望を伝え、医療に参加する権利
5. 人間としての尊厳が守られることを期待する権利

統計

2月

外来患者数

10,191人

新外来患者数

1,625人

新入院患者数

490人

退院患者数

461人

平均在院日数

18.84日

救急車・時間外患者数

1,149人

手術件数

140件

